

お知らせ

十月例会

- ・期日 立教181年10月25日
- ・時間 15時30分受付、16時開始
- ・場所 教庁4階講堂

報告

八月例会

去る8月25日、教庁4階講堂に於いて「八月例会」を開催。出席は40教区、102直属。

業務記録

《立教181年8月16日～9月15日》

- 8月24日 三誌一括発送
- 25日 委員会 例会
- 25日 広報室会議
- 人材育成部部会
- 26日 まなびばチーム会議
- 出版部部会
- 27日 三誌一括発送
- 研修会チーム会議
- 担当者活動部部会
- 9月6日 出版部部会
- 7日 学修大学の部研究室会議
- 春の学生おぢばがえり
- プロジェクトチーム会議
- ビデオチーム会議
- 学修部部会
- 8日 委員会
- 学修高校の部研究室会議
- 学生部部会
- 9日 委員会
- 担当者活動部部会
- 13日 学生連絡会
- まなびばチーム会議

学生担当者報

学生層育成者講習会	
日程・会場案内	
【教区】	
・佐賀	10月2日13時～ 教務支庁
・長崎	10月4日12時～ 教務支庁
・高知	10月31日9時～ 高知大教会
【直属】	
・南	10月22日15時～ 大教会
・島ヶ原	10月24日12時～ 大教会
・中津	10月25日17時45分～ 詰所
・梅谷	10月26日13時～ 詰所
・那美岐	10月26日16時～ 詰所

各地の動き

【直属学生層育成者講習会】

- ・大縣 8月25日 詰所 34名
- 柏原委員出向

人事

《立教181年8月31日付》

【学生担当委員会事務局退職者】

- ・佐々木大起（西陣・嵐山）

学生担当委員会発足四十年記念 学生担当者大会



学生担当委員会とは、今から四十年前、教祖九十年祭

後の活動指針の一つとして打ち出された若年層の育成を推進するために、昭和五十三年に発足しました。その目標とするところは、教祖八十年祭直前の昭和三十三年に結成された「天理教学生会の活動をバックアップすると共に、道の将来を担う学生・生徒が、世界たすけのよう、よくとして成人するための世話取りをすること」でありました。

現在に至るまで、真柱様の大きな親心のもと、本部、教区、直属の育成・支援体制もだんだんと整えられ、活動内容も充実してきたことは大変ありがたいことであり

担当者活動部 委員

富松 基成

わるの中に、共に育つ努力を怠らず、お道の素晴らしさ、たすけ、一条の教祖の御心を伝える努力を重ねてまいりました。その今年度の活動もあと半年となります。

発足四十年という記念すべき大会の日には、真柱様のご臨席を賜り、お言葉を頂戴する予定となっております。私たち学生担当者お互い、今年度残り半年の活動の上に、さらには今後の学生層育成の上に、常にあふれる情熱と熱心な布教の心を持ち、一手一つに歩みを進めるための新たな決意をする日とさせていただきます。

どうか、直属教会長様、教区長様、教区・直属の学生担当者の方にはもちろん、学生層の育成に関わるすべての方々にご参加をいただきますよう、お願い申し上げます。

学生担当者報 10

Vol.380

発行／天理教学生担当委員会 発行責任者／松村孝吉 編集責任者／福江弘一
 [TEL] 0743-63-1511 (内線 5817) (直通) 0743-63-2489 [FAX] 0743-62-5780
 [E-Mail] tsa@tenrikyo.or.jp [TSA website] http://tsa.tenrikyo.or.jp

立教181年
 平成30年9月25日発行

学生生徒修養会 高校の部 受講生・カウンセラー感想文

GAKUSHU for high school students

●受講生感想文

学修で得たことは、感謝が大切だということだと思います。今までは体は自分のものだと思っていたけど、体は神様からの「かりもの」で、心だけが自分のものだ実感しました。体は神様のために大切にし、心は人のために尽くせるように磨きをかけていきたいと思いました。これからは小さな感謝を相手に伝えていきます。

(一年生 男子)

正直、親に言われて嫌々来た学修だったけど、本当に班のみんなといるのが楽しくて、みんなの良いところをたくさん吸収できたと思います。今まで曖昧だった天理教のこと、よろづよ八首などもしっかり確認

できて良かったです。また、普段の生活において、人の見ていないところで良い行いをする事で、自分に何かあったときに助けてもらえることを学びました。

(一年生 女子)

した。心の中で話すことの恐怖心がありました。「この人は私のことを受け入れてくれるだろうか？」と心配して結局話すことを諦めて心を閉ざしていました。でも、学修に来て、みんなが自分の話を聞いてくれて「この人たちならいいかな？」と思い、自分の将来の夢を話しました。そしたら「すごいな」と褒めてくれました。本当に嬉しかったです。勇気はすごくいるけど、自分の話をするのは大切だと学びました。

(二年生 女子)

仲間はずれに思っている人もいて、自分より辛い経験をしている人もいて、でもその子達は先に進もうとしている。「自分はどうなの？」と思い、学んだというより、課題が増えたと思った。

(二年生 男子)

今回の学修でおつとめに対する姿勢や教祖の話が印象に残った。みんなと一緒にひのきしんしたり、ご飯食べたりのため、つちゃ楽しかった。今後もしっかりとおつ

学生担当者報

学生担当者報

と、めに心を込めてやらせてもらいたいです。

(三年生 男子)

自分は凄くネガティブですぐに不足してしまうような人間だったけど、「誰でもそうだよ。大丈夫」と先生が言ってくれるのがあたたかくて嬉しかったです。学修で学んだことは多すぎて、うまくまとめられなけれど、これから家に帰ってもどんなことが起きても、喜んで陽気に日々通らせていただきたいと思います。

(三年生 女子)

●カウンセラー感想文
私は今回で学修のご用をいただいて四回目になりました。四年前から妹にガンの身上を頂いており、ご本部のご用をいただけることは大変有難い思いでいっぱいです。今回初めて一年生のカウンセラーを務めさせていただき、戸惑うこともありまし

が、寮長先生はじめ、スタッフの仲間や、同じフロアのカウンセラーさん達に支えていただいて、つとめ終えることが出来ました。

私の班には、クールで、仲間に対して強

がったり、つい言葉が強くなってしまいうA君という生徒がいました。四日目くらいから班の輪から少し外れ始めたので、溝がでさなないように注意していました。彼は腹痛がひどくなりやすく、期間中も何度か救護室で休んでいたのですが、最終日の前夜、みんなで最後のお礼を言い合うという班別タイムの前に、再び腹痛がひどくなり、救護室で休まざるを得なくなりました。私はおさづけを取り次いでお願いづとめをさせて頂き、班のみんなでA君を迎えにいきました。が、とても戻れそうな様子では無かった。ひとまず残りの七人で最後の班別タイムを始めることにしました。

班別タイムでは、「私の宝物」というエクスサイズの後、みんなで目を閉じて、学

修に来る前から今日までと、明日家に帰って、日常に戻ることを想像してもらいました。目を開けるとみんな涙を流して、一人ひとりに感謝の思いを伝え合ってくれました。

そしてみんなでA君にも感謝を言いに行こうということになり、救護室に行くと、彼も空気を察してくれたのか起き上がって話を聞いてくれ、みんなからの言葉をもらうと、誰よりも彼が一番号泣しながら、みんなに感謝の思いを伝えてくれました。みんなの心が通じ合い、おちばでこの班に彼の居場所ができたことを感じました。人は居場所を求めているんだと改めて感じました。

学修は本当に有難いご用だと思えます。今後も今回学んだことを忘れず、一人ひとりの心を大切にして、日々を通らせていただきたいと思えます。(一年生男子担当)

学生生徒修養会 高校の部 一年生講師感想文

私は、講師として二年目でしたが、決して慣れた気持ちはなく、一年目と変わらず不安でいっぱいでした。昨年は、学修の直前まで痔の身上で入院。今年は椎間板ヘルニアになり、通院。また、本番の一ヶ月前には産まれたばかりの我が子が重篤な病気になる入院し、子どもに付きっ切りでした。

そんな中始まった本期間。私のクラスはとても素直で真面目な子達でしたが、レクチャ―初日から男子学生が一人欠席してしまいました。カウンセラーさんに聞くと頭痛で休んでいて、部活や勉強のことが不安で「帰りたい」と言っているとのことでした。寮の先生やカウンセラーの方々の説得もあって、何とか三日目から顔を出してくれるようになりましたが、最初のウォーミングアップやクラスミーティングにいなかった分、またすぐに嫌にならないか不安でした。また、ある女の子は、なかなかみんなの輪に入れずに、連日「楽しめない」「帰りたい」というコメントをふりかえりシートの中に残していました。他にも難聴の子や、ダウン症の男の子もいて、長

時間のレクチャーや、体力を使う「史跡めぐり」などについていけるかなど、心配事は尽きませんでした。

色々悩んでいると、私はあることに気がつきました。みんな色々なハンデや不安を抱えながら学修に来ている。「私も同じだ」と。私もヘルニアの痛みをこらえながら、また遠く離れた病院で病氣と闘っている我が子のこととを思い、不安を抱えながらおちばに帰ってきた。「彼等の気持ちを一番理解してあげられるのは自分じゃないか」と。じゃあ彼等はなぜ、学修に参加したのか。私はなぜ、こんな状況でもおちばに帰ろうと思ったのか。それはきっと私も彼等も学修が素晴らしいところだと知っているから、必ず素敵なものを得られると信じているからだと思いました。直前研修の結団式にて表統領先生が仰っていたことを思い出しました。「親神様は背負えない荷物は背負わせない。その人が背負うことができるものを背負わせて貰っているんだ」と、その言葉に勇気ももらいました。私はたとえうまくいかなかったとしても、全てを出し切っ

足りないところは神様に凭れさせて貰おうと心に決め、毎日のレクチャーや、学生達とのやりとりにも全力を注ぎました。少しでも「教理」が「思い」が伝わるよう、少しでもみんなが「笑顔に」になれるよう、「二手一つ」になれるよう心を尽くしました。

すると、様々な変化が現れてきました。不安視していたダウン症の子は、「史跡めぐり」を一生懸命歩き、その愛嬌の良さと頑張っている姿にみんなが彼を応援し、彼を中心に一体感が生まれました。連日ふりかえりシートに「楽しめない」と書いていた子も、後半には「学修を楽しめるようになった」「終わるのが寂しい」というようにコメントが変わっていきました。最初から欠席で「帰りたい」と言っていた男の子も、いつの間にか班にも溶け込んで、最後には感動の涙を流してくれました。みんな泣きました。

私の身上がなかったら、気づかなかったことも沢山あると思います。講師として、どれだけのことを伝えることができたかは分かりませんが、私たちがまた、沢山のことを学ばせていただけたと思います。

青空

学生層の育成に携わるようになり二十二年になります。最初の頃は学生との向き合い方に戸惑い悩むことが多々あり、自分には不向きなご用だと感じて前向きにとめることができないう時期がありました。

そんな自分の心境を徐々に前向きに変えてくれたのは行事に参加してくれる学生達の姿でした。こちらが思うより大人な面があったり、しっかりしていると思いきや子供っぽい面もある。多感な時期、いろんな悩みを抱えながらそれぞれが未来に向けて希望と不安が入り混じる中で精一杯彼等なりに何かを感じ何かを学ぼうと懸命に頑張っている。その学生達の素直で真っ直ぐな姿勢を目の当たりにしていくうちに私の方が多い気づきと学びを得たように思います。何より育成というご用のありがたさを実感いたしました。

持ち場は変われど、これからも一人でも多くの学生が次代を担う立派なようぶくに成人していく後押しを一育成者としてしっかりとめさせていたきたいと思えます。

高岡大教会学生担当委員会前委員長
田中修二

学生担当者報



ハッピースト
フォト
ギャラリー

行事中に「Happistカメラマン」が撮影した写真を販売しています！



子どもおちばがえり
学生ひのきしん隊

内容：立教181年 こどもおちばがえり学生ひのきしん隊
立教181年 学生生徒修養会 高校の部

頒布期間：平成30年9月25日～平成30年12月25日

購入方法：パソコンやスマートフォンで下記のURLにアクセスし、イベントIDとパスワード(各行事で異なります)を入力して閲覧・購入してください。イベントIDとパスワードについては、参加者と担当者への配付資料「Happist Photo Gallery」をご覧ください。学生担当委員会事務局(☎0743-63-2489)までお問い合わせください。なお、インターネットでの購入が困難な方は、学生担当委員会事務局の窓口にて対応いたします。

頒布価格：L版40円 2L版100円 ※別途送料が必要です。

URL：http://11kao.jp/

Happist11月号 予告

連載

- ・教理コーナー
おやじの小言!? 山中 修 (大典分教会長)
- ・信仰エッセー
明日の地図ひろげて 老沼 育正 (都賀大教会長)
- ・発見がある 心が踊る
私立はっぴす学園 渡辺 一平
- ・マンガ
ココロtravel ニシカワヨウコ
- ・学生のお顔をどうぞ
TSA SNAP

個人宅に直接「Happist」が届く個人購読も行っております。詳細は学生担当委員会事務局までお問い合わせください。

※内容は一部変更になる場合があります

大学生の集い Work & Talk 開催報告

●九州ブロック

八月二十八日から二十九日にかけて、長崎教務支庁を会場に「九州ブロック大学生の集い Work & Talk 2018 in 長崎」が開催され、十二名の学生が参加しました。

今回は「How to 陽気ぐらし」をテーマとして、長崎教区長・田邊治郎先生のお話とグループタイムを中心としたプログラムとなりました。

初日は、開講式、ウォーミングアップの後、二つの班に分かれてグループタイム。その後、田邊先生よりお話があり、涙あり笑いありの分かりやすいお話に学生たちも引き込まれていました。その後、お話を振り返りながら、お互いの気づきや素直な思いを語り合いました。

二日目は、初日同様、田邊先生のお話、グループタイム、最後に全員で神名流しを行い、昼食のバーベキューをいただいて解散となりました。

少人数でしたが、内容の濃い、今後に繋

がる良い交流の場となりました。

●東北ブロック

八月二十九日から三十日にかけて秋田教務支庁を会場に、「東北ブロック大学生の集い Work & Talk 2018 in 秋田」が開催され、六名の学生が参加しました。学生達は、グループワークなどを通して、同じ道につながる同世代の仲間と互いに打ち解け合いました。

今回は二日目に「献血ひのきしん」を行うにあたり、初日の午後、秋田大学付属病院准教授・天理教名川分教会長の小松田敦先生より「かしの・かりもの」と題して献血についてのお話を聞かせていただきました。その後ふりかえりを行い、かりもの、体の不思議さや、今の献血に至るまでの歴史、また献血により人助けにつながるという話を再度学生同士でもする中で、献血に向けての意識が向上しました。

二日目には、教務支庁に献血バスが来て

学生、担当者、地域の方々により献血が実施されました。学生達は期間を通して、献血に対する知識や自分たちに来ることを学び、日々を通る中で行動に移すということを誓い合い会場を後にしました。

●東海ブロック

九月一日から二日にかけて、長野県のキャンプ施設（せいなの森キャンプ場）を会場に「東海ブロック大学生の集い Work & Talk 2018 in 南信州」が開催され、六十二名の学生が参加しました。五月の事前研修会の際に、学生スタッフが決めたテーマ「ありがたみ」陽気ぐらしの手がかりのもと、班ごとに企画したプログラムが進められました。

初日は開講式の後、岐阜教区学生担当委員会 井戸健一郎委員長より体験講話があり、その中で西日本を中心に七月に発生した豪雨の被害を受けて経験した、人の「ありがたみ」などについてお話があり、最後に「この二日間、心の殻を打ち破って学んでいただきたい」とエールが送られました。

学生担当者報

夜の全班統一のプログラム「キャンプファイヤーナイト」では、東海ブロックの交流を図りつつ、対抗のゲームを通して班内の絆を深めました。

二日目は本部学生担当委員会 富松基成委員長より、自らの身上を通して感じた「ありがたみ」を台に基調講演をいただきました。この後は各班に分かれて、施設内の除草ひのきしんに汗を流す班、「火・水・風」それぞれを題材にした劇を作って披露する班、また人生の中で影響を与えてくれた人のエピソードを紹介しながら、ねり合いを行う班などがありました。昼食後には全体で各班の内容報告を行い、学んだことや感想を発表しました。

今回のWork & Talkを通して教理について考え、心に触れ合った二日間。学校生活や日常に戻っても学んだことや、感じた「ありがたみ」を実践していく大切さを学びました。

●中国ブロック

九月一日から二日にかけて島根教務支庁及びキララコテージを会場に、「中国ブ

ック大学生の集い Work & Talk 2018 in 島根」が開催され、四十名の学生が参加しました。参加した学生は、今回のテーマである「感謝」あたりまえがありがたい」に沿って、日常当たり前だと思っていたことがどんなに有難いことなのかを、キャンプを通して体感しました。

二日目には本部学生担当委員会 福江弘一副委員長より「感謝」あたりまえがありがたい」に基づいての講演をいただき、班別ねり合いを行ったあと、感謝を行動に表そうと、出雲市内の神名流しと病院でのひのきしんを真剣につとめました。そして、今回のプログラムを通して感じたことを大切に、親神様の御恵に感謝する日々を送ることを誓い合い、会場を後にしました。

●四国ブロック

九月八日から九日にかけて、「四国ブロック大学生の集い Work & Talk 2018 in 愛媛」が、愛媛教務支庁において開催され、十五名の学生が参加しました。今回は「シアワセサガシ」というテーマのもとに行われ、開講式に引き続き、ウォーミングアッ

プ、そして四つに構成されたグループタイムでは、自己紹介及びすごろくトークキング、また自分の一日のスケジュールを元に心の動きを考え、マイナスの感情の中からも、「シアワセ」であることを感じ、プラスの感情へと心の向きを変えてみる体験をするグループタイム「わたしの一日」を行いました。

講師のお話では、実体験をもとに、「普通の生活の中で今ある幸せに気づくことの大切さ」や、「心を作ることを大切にしたい」といったお話の内容に、学生達も熱心に聞きっていました。

二日目は、「足湯を探せ！」が行われ、道後温泉を舞台に、周辺の観光スポットを撮影していくウォークラリーを、雨が降り続くなか行いました。

二日間の振り返りを行ない閉講式を終えた後、学生らの笑顔と賑やかな声が響く中、二日間を一緒に過ごした仲間をお互い見送り合いました。

学生担当者報